

# わが街 Watching



▲伊藤信勝市長に目録を手渡す井上取締役(左)

防災力の強化に役立てて

## 株ホンダカーズ筑豊が防災資機材を寄付

3月19日、(株)ホンダカーズ筑豊(川宮)の関係者らが市役所を訪れ、発電機8台とカセットボンベ18本、エンジンオイル19本を寄付しました。

この発電機は、購入・使用・保管が容易にできる家庭用カセットガスボンベを燃料とし、簡単な操作で発電が可能。そのため、災害などにより停電した場合での活躍が期待されています。

同社の井上領平代表取締役は「田川で育ててもらった会社なのでなにかお返しをしたかった。自主防災組織の設立に役立てばうれしいし、防災用に限らず地域の祭りなどでも活用してほしい」と話しました。

愛 SUN SUN

## つくしの里合同作品展

3月9日～11日、つくしの里、第2つくしの里、アドバンスセンター(川宮)で合同作品展が開催されました。

つくしの里では、市内外の作業所やギャラリーの作品展示即売会、さをり織体験が行われ、親子連れなどが慣れない手つきでさをり織に挑戦しました。つくしの里でさをり織を制作する榊かつ枝さんは「さをり織は楽しいけれど、みんなに教えるのは緊張した」と話しました。

また、福岡の屋台のラーメンコーナーや喫茶コーナー、焼きたてのパン・作りたての豆腐試食販売コーナーが設けられたほか、大藪小児童によるステージ発表やもちつき大会なども行われ、たくさんの人で賑わいました。



▲ひとつひとつ丁寧に織っていきます

心も体も元気はつらつ

## シルバー趣味の教室作品展・芸能大会

3月17日、18日に田川青少年文化ホールでシルバー趣味の教室作品展と芸能大会が開催され、延べ208人の受講生が1年間学んだ成果を披露しました。

シルバー趣味の教室は、市の高齢者福祉事業の一環として行われており、市内在住の60歳以上の人たちが陶芸や俳句、民謡などを学んでいます。作品展の会場には約400点の力作が並び、芸能大会では舞台上で踊りや詩吟などが披露され、会場を訪れた人たちを楽しませていました。

俳句教室で講師をしている大塚枝三子さん(栄町)は「一生懸命取り組んだ成果を発表できた。作品展などを通して、若い世代も俳句に興味を持ってくれたら」と話しました。



▲英訳した俳句を披露する英会話教室の受講生



▲負傷者(ダミー人形)を搬送する救急隊員

悲劇を繰り返さないために

## 6団体共同で大震災警備訓練を実施

東日本大震災の発生から1年を迎えた3月12日、田川文化センターで、大震災警備訓練が実施されました。

訓練は、震度7の地震が発生し、田川文化センターで多数の負傷者が出たという想定。田川警察署や田川地区消防署、田川市消防団、田川医師会、田川保健福祉事務所、田川市の6団体が共同で、施設内からの負傷者救出や救護所の設営、現場での診察など連携しながら取り組みました。

田川警察署の村上賢二署長は「初めて6団体が共同で訓練を行ったが、連携も良好で所期の目的は達成できた。今後は、この訓練などで得られた教訓をいかし、万が一の事態に備え、更なる連携体制を構築したい」と話しました。



▲講師の話に耳を傾ける参加者たち

仕事も家庭もどっちも大事

## ゆめっせ男女共同参画研修会

3月22日、市民会館でゆめっせ男女共同参画研修会が開催され、約50人が参加しました。

九州大学大学院准教授の遠藤雄二さんが「職場における男女平等とワーク・ライフ・バランス」と題し、国際的な視野から欧米諸国の実例などを紹介。ジョークを交えた解説に、参加者からは笑い声がでる場面もあり、終始和やかな雰囲気の中、講演は行われました。

講演の中で、遠藤さんは「男女共同参画社会を実現するためには、みなさんが地域を知り、日本を知り、世界を知り、いろんなことを自分で考え、賢くなっていくことが大切」と話しました。

早期の発見、対応を

## メンタルヘルス講演会

3月15日、田川市民会館で一本松さずかけ病院の林田隆晴病院長を講師に招き、「うつ病の予防～早期発見・早期対応～」と題したメンタルヘルス講演会が開催され、約80人が参加しました。

講演では、具体的な症例などを示しながら、うつ病のパターンやタイプ別にその特徴や対処方法などをプロジェクターに映しだされた資料を使い解説。参加者は時折メモを取りながら、真剣な表情で話を聞いていました。

林田病院長は「うつ病は休息をとるなど治療すればちゃんと改善する。自分や周囲から兆候などを感じたら、すぐに専門医療機関に相談してほしい」と話しました。



▲身ぶり手ぶりを交えながら説明する遠藤さん